

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 4月20日現在

機関番号：11301

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21720269

研究課題名（和文）ヨーロッパ近世における学環の成立の研究

研究課題名（英文）How was Formed the Open Communication in 16<sup>th</sup> Century Europe?

研究代表者

小川 知幸（OGAWA TOMOYUKI）

東北大学・学術資源研究公開センター・助教

研究者番号：70312519

研究成果の概要（和文）：本研究は、最初の近代地図帳といわれるオルテリウスの『世界の舞台』（*Theatrum Orbis Terrarum*）の各版および関連資料の海外での収集と分析により、ヨーロッパ近世における「学環」の成立を解明することを目的とし、その結果、同書が既存地図の体系化により世界を再構成したものであること、その引用元を明確化することで学術コミュニケーションのオープン化を図ったものであること、そしてこれが国際的な学識者のコミュニティを体現したものであり、世界に広く流通したことがあきらかとなった。

研究成果の概要（英文）：The Study made clear the historical situation of being formed the communication between leaned-men and other people in 16<sup>th</sup> Century Europe, through publishing the Ortelius' *Theatrum Orbis Terrarum*, called the first modern Atlas. We found the following facts: The Atlas is reconstructing the World by gathering existing maps (not original maps), still, laying the basis for the academic communication by giving the authorities in the Catalogue. And therefore the Atlas was accepted in 16-17<sup>th</sup> Century Europe and consequently influenced the understanding about the globe even in Asia.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：西洋史

キーワード：比較・交流史、科学社会学

## 1. 研究開始当初の背景

知の情報が狭い分野に秘匿される状態、すなわち、専門家たちのコミュニティ内部にのみ発信されることを「インパブリッシュ」とよび、これが特定のコミュニティをこえ、外部へと発信されることを「アウトパブリッシュ」とよぶ。コミュニティ外部への知の普及は、コミュニティそのものを社会的に強化し、

その駆動力となる。これまでおこなってきた「ヨーロッパ活版印刷初期における筆写工場の研究」から、このような知的エリートのコミュニティ＝社会間のオープン・コミュニケーション（学環）が成立したのは、具体的にはヨーロッパの15世紀後半から16世紀にかけての「出版界」においてであったのではないかと構想した。

そこで、最初の近代地図帳といわれるオルテリウスの『世界の舞台』(Theatrum Orbis Terrarum)のテキスト、図版、関係資料の収集と分析を通じて、学環の成立の歴史的事実の解明を企図した。同書は、30年足らずのうちに28版を重ね、各国語に翻訳された国際的な編集出版事業であり、クーマン(C. Koeman)によれば、書物を介して初めて実現された、研究の協同的推進と科学の累進的発展と評されていたが、いまだに体系的な研究はおこなわれていなかった。

## 2. 研究の目的

『世界の舞台』には知的エリートのコミュニティをこえたオープン・コミュニケーション、すなわち学環の成立が表現されていると考え、このようなブレイク・スルーの現場、つまり出版コミュニティの具体的な担い手とその拡大、そしてその表象である世界記述の変化の解明をめざした。そしてその製作者たちの内部相互交流の実態と変化(インパブリッシュの局面)と読者コミュニティとの相互交歓(アウトパブリッシュの局面)を跡づけることにより、ヨーロッパ近世における「学環」の成立と、それがヨーロッパの知の再生および発展のためにはたした役割をあきらかにしようとした。

## 3. 研究の方法

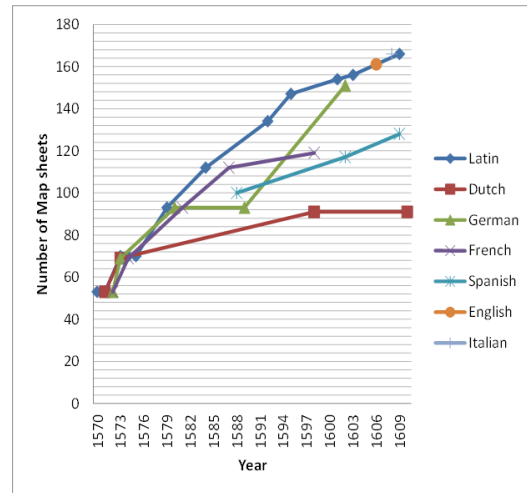
本研究は、『世界の舞台』の各版のテキスト、図版、関係資料をおもに海外調査によって収集し、これをデータベース化しながら、歴史文献学的操作を加えて分析した。調査にあたっては、同書の出版事業の全体像をあきらかにすべく、ハイデルベルク大学のサウルマ(E. Saurma)教授、ゲッティンゲン大学のハーベル(T. Habel)博士らの協力と助言を仰ぎながら、できるかぎり包括的な史料の収集をめざした。なお、これらの立案・史料収集・整理・分析・論文の執筆等は、基本的に一人でおこなった。

## 4. 研究成果

### (1) 『世界の舞台』の刊行

『世界の舞台』は1570年に初版が刊行され、オルテリウスの没した1598年までを数えても、これまでいわれていた28版をこえて、各国語で35もの版がつけられたことが判明した。具体的には、ラテン語版13版、ドイツ語版、フランス語版、スペイン語版各5版、オランダ語版4版、イタリア語版2版、英語版1版である。また、死後の版も13版におよんでいた。増補改訂も5次にわたっており、そのたびに収録地図が増加し、初版の53幅から最終的には3倍の166幅にいたった。同書の販売価格は、平均的な市民の収入のおよそ1カ月から2カ月分に相当したと推定さ

れるが、その売上部数は初版で320部以上、1598年までで二千部をこえた。このような成功の背景には、その改訂が1年から数年という短期間のペースでおこなわれたことと、地図数の大幅な増補にあったとおもわれる。また、最大のメリットは、地図を一定の規格にしたがって一冊にまとめあげたことにあった。

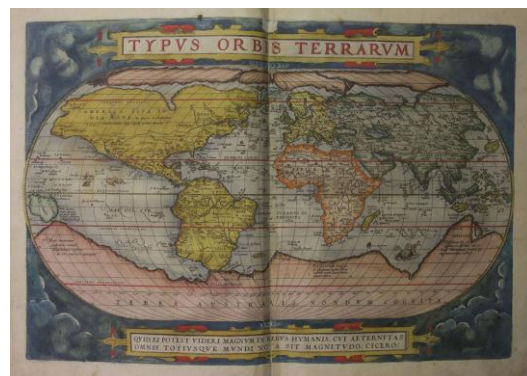


『世界の舞台』各版と地図の増加

### (2) 地図のコンポジション

同書以前にもポルトラーノなどの海図は利用されていたが、官撰でいわゆる門外不出であったこと、写本として筆削により改良されていたことなどのために普及にはいたらなかった。一方、プトレマイオスの地理学書(Geographia)の再発見によって座標系地図の発展の素地が生み出された。そこに約8千地点の座標が記されており、オルテリウスもより正確な地図の選定のために膨大な地名のシソーラスを作成している。

しかしながら、『世界の舞台』の製作のためにとられた方法は、さまざまな地図を配置し、それらを構成要素として世界全体を組み立て直すというものであった。まず、世界全図は直前に刊行されたメルカトルの地図であり、ほとんど改変されていない。

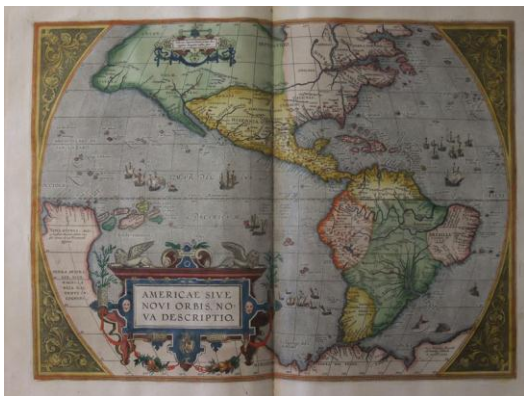


『世界の舞台』の世界全図

また、同書に掲載された地図のおよそ9割が他の製作者にかかる地図であった。参照された地図製作者は183名にのぼっている。古典を除いた地図の出典としては、ドイツ人92名、ネーデルランド出身者26名、フランス人39名、イタリア人104名、スペイン人45名、ブリテン人9名、その他6名から採用されていた。このようなコンポジション的手法は、つねに新しく正確な情報に対応するために当初から意図されたものであり、同書の序文においても宣言されている。新たな地図や修正・補足情報を送付するよう読者に呼びかけ、改訂時にその出典を掲載することで、学術コミュニケーションのオープン化を図り、出典と参考文献を明記した現代の学術論文へとつながる基礎が築かれた。

### (3) 語りとしての地図

つぎに、同書刊行より約80年前に発見されたアメリカ大陸についても、すでに詳細な地図が掲載されていた。アメリカの名は1507年に刊行されたヴァルトゼーミュラーの地図により命名されたが、オルテリウスはこれを入手できず、セヴィーリヤの地図製作者グティエレスの地図に拠っている。



アメリカ大陸図 (1593年版)

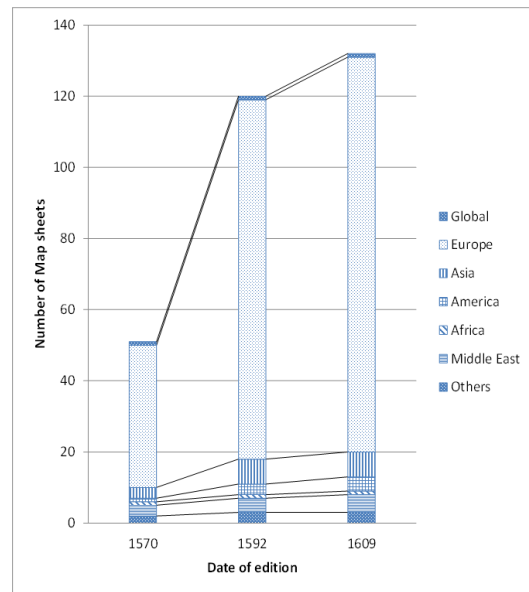
ただし、地図を読む上で注意しなければならないのは、『世界の舞台』における地図のかなりの部分は人文的手法により製作されたものであり、17世紀に登場する数学的・天文学的に製作された近代の地図とは一線を画しているという点である。具体的には、まだ観測されていない地点を空白にせず、古典等の著作の記述により埋めており、また、それらの著作に現れる大陸や未知の生物(リヴィアタンなど)をあえて地図上に描いている。ここでの地図は基本的に narrative なものであり、世界の拡大と伝統的世界観との相克を表現した「語り」としての地図であった。

### (4) 地域間の序列化

しかし、それは同書の刊行を通じて築かれ

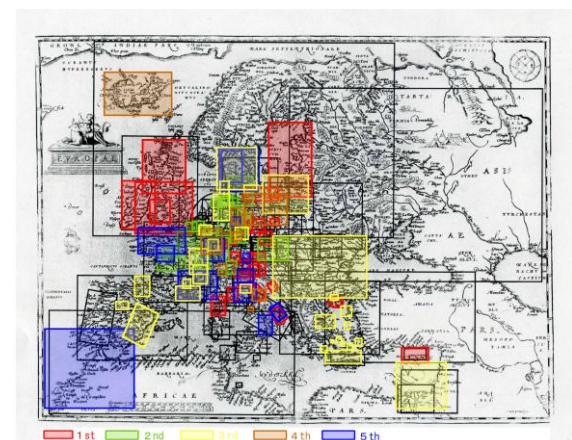
た専門家＝読者のコミュニティの意義を失わせるものではない。むしろ、その表象のあり方には当時の世界認識が強く反映されていたといえる。

1点だけ触れておきたい。同書は世界を五大大陸に区分しているが、これを基本として世界を分類・体系化することで、全体と部分の関係が整序されている。世界のすべての部分の知の情報を受容できるこの構造もまた同書の大きなメリットであった。そのため、明代の中国、天正期の日本でも地図製作等に利用されたことがわかっている。とはいえ、増補改訂を繰り返すなかで、その数を増したのは圧倒的にヨーロッパの地方図であった。



『世界の舞台』地域別地図数の増加

つまり、世界は水平方向に拡大しただけでなく、その濃度と重なりによって垂直方向にも分化し、傾斜した。地域間に階層と序列が発生したのである。



増補されたヨーロッパ地方図のパターン

すなわち、グローバル化が進行するなかで、ヨーロッパの人びとはその何倍もの関心を自己の領域へと向けはじめた。これは一種の「グローバル」現象とっていいだろう。

グローバルとは、世界規模で考え、地域の視点で活動するという意味の Think globally, act locally ということばからつくられた造語である。しかし、近代に西欧が他の地域を圧倒する密度で立ち現れてきた、そのような形で近代の知の発展がみちびかれていく原拠のひとつを、この『世界の舞台』がすでに表現していたことは新たな発見であった。

それ以外にも、同書の地図には過去と現在の時間的な広がり表現するものさえある。

『世界の舞台』とは、このように時空間を包括しようとする歴史叙述、いわば歴史書であったのではないかとおもわれるが、その点については今後の研究の課題としたい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

1. 小川 知幸、グローバル化する近代地図帳、東北大学総合学術博物館ニュースレターOmnivident[オムニヴィデンス]、査読無、No. 41、2012年、4-6
2. 小川 知幸、『種の起源』の寄贈と保存修復、東北大学附属図書館調査研究室年報、査読無、第1号、11-19
3. 小川 知幸、エドワード・モース著『日本陶器モース・コレクション目録』ケンブリッジ、1901年刊、東北大学附属図書館調査研究室年報、査読無、第1号、85-88
4. 小川 知幸、世界を再構成する—オルテリウス『世界の舞台のコンポジション』—Composition of the Theatrum Orbis Terrarum、東北大学総合学術博物館ニュースレターOmnivident[オムニヴィデンス]、査読無、No. 39、2011年、2-5
5. 小川 知幸、書物と音楽の交わるどころ—musica e storia intrecciarsi in libro—東北大学総合学術博物館ニュースレターOmnivident[オムニヴィデンス]、査読無、No. 37、2010年、4-5
6. 小川 知幸、歴史資料のコンサベーション、東北大学総合学術博物館ニュースレターOmnivident[オムニヴィデンス]、査読無、No. 36、2010年、6-7
7. 小川 知幸、オルテリウスの海獣—近代地図帳の誕生と学環の成立—、東北大学総合学術博物館ニュースレターOmnivident[オムニヴィデンス]、査読無、No. 35、2010年、2-3
8. 小川 知幸、まてまていか=學パレ

ルベキモノーバースのアデラードと『幾何学原論』一、東北大学附属図書館報・木這子、査読無、Vol. 34, No. 2、2009年、2-9

[学会発表] (計1件)

1. 小川 知幸、歴史資料のコンサベーション、第5回博物科学会、2010年6月24日、東北大学

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

<http://www.museum.tohoku.ac.jp/about/staff/ogawa.htm>

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

小川 知幸 (OGAWA TOMOYUKI)

東北大学・学術資源研究公開センター・助教

研究者番号：70312519

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：